

Ⅱ 「学びの変革」の“深化”

「個別最適な学び」の推進

人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが劇的に変わる状況が生じており、学校・教育・学びの「アップデート」が必要となっている。

本県においては、令和元年度から「個別最適な学び」に関する調査研究を実施し、令和2年3月には、これからの学校や学びはどうあるべきかという視点に基づき、「個別最適な学び」の実現に必要な観点などについて、「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」（以下「提案」という。）として整理した。さらに、令和2年度から2年間、「個別最適な学び」に関する実証研究として、県内4地域の指定校において各学校の教育目標の実現に向け、子供たちの実態（学習進度や能力、関心等）に応じた多様な学びの選択肢の提供と自己決定場面の設定を意識した教育活動に取り組み、令和4年度からその実践を県内へ普及するため、教職員研修等を実施し、推進を図っている。

1 「個別最適な学び」について

（1）「個別最適な学び」が求められる背景

本県では、グローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築を目指して、「広島版『学びの変革』アクション・プラン（平成26年12月）」に基づき、各学校において、全ての児童生徒の主体的な学びを促す教育活動に取り組んできた。これまでの各学校の取組によって、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」児童生徒の割合が増加し、学習の仕方が改善されているなどの成果が見られている。一方で、「広島県『基礎・基本』定着状況調査（児童生徒質問紙調査）」の結果によると、「主体的な学び」に向かっていない児童生徒が1割程度みられ、さらに、主体的な学びの定着度合い（＝課題発見・解決学習に関する質問項目に対する肯定的な回答数）の減少に連動して、自己肯定感や学ぶ楽しさ・できる喜びが低下している状況がみられており、様々な要因から授業に参加できていない、あるいは、意欲的に学習できていない児童生徒がいることから、一斉指導を前提としたカリキュラムだけでは主体的に学ぶことが難しい児童生徒がいると捉えている。

学習指導要領（平成29年告示）の総則「第4 児童（生徒）の発達への支援」においても、「児童（生徒）が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童（生徒）や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童（生徒）の興味・関心に応じた課題学習、補充的な学習や発展的

な学習などの学習活動を取り入れること（中略）」と「個に応じた指導」の充実を図ることが示されている。

また、令和3年1月に中央教育審議会から答申された「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」においても、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となっている中、子供たちを支える伴走者である教師には、ICTも活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実し、子供たちの資質・能力を育成することが求められている。

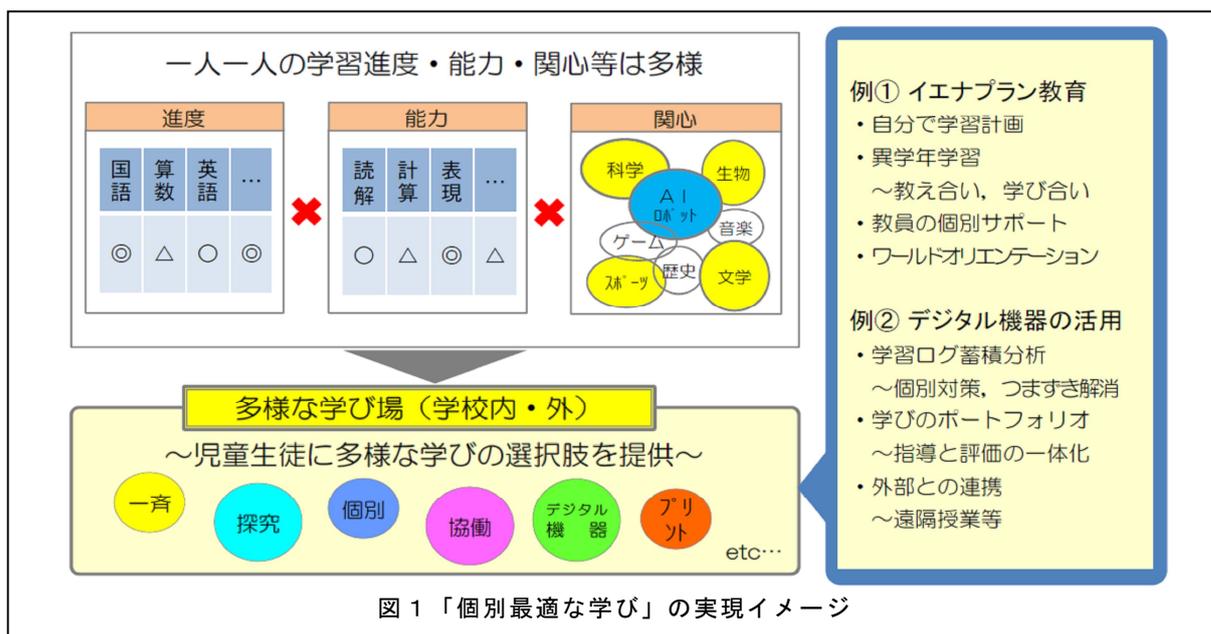
参考HP：文部科学省

「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

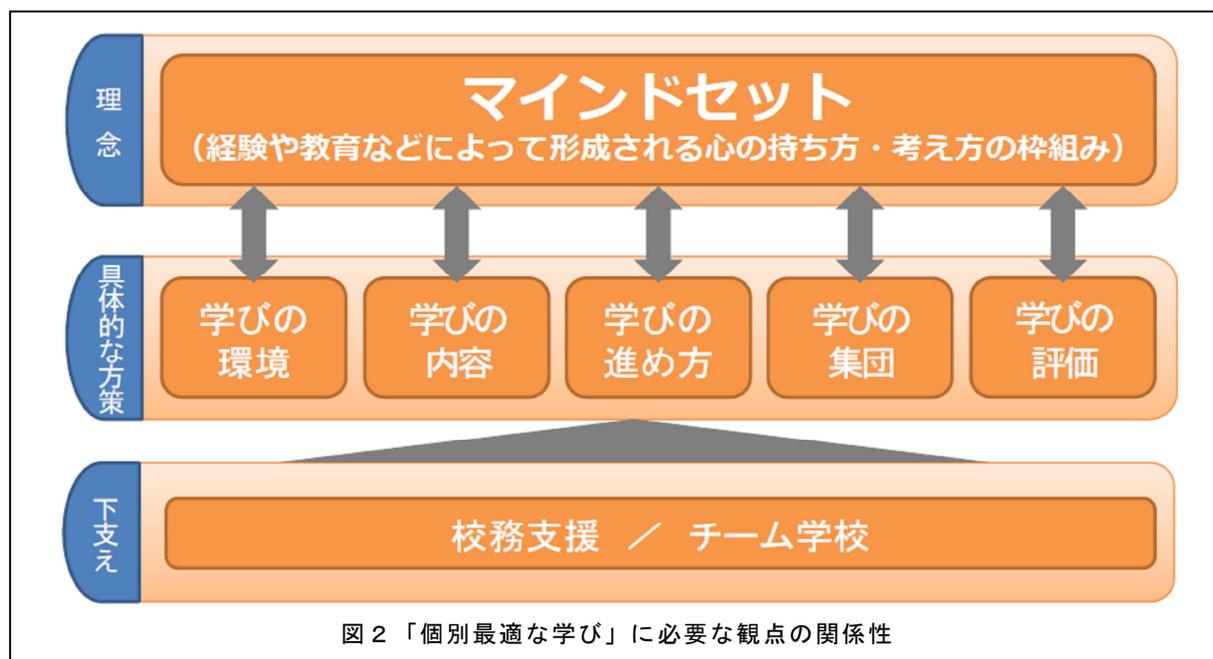
（２）「個別最適な学び」を推進していくために

「個別最適な学び」とは、児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じた、それぞれに最適な学びのことであり、児童生徒一人一人に多様な学びの選択肢を提供することで、基盤的な学力の習得も含め、主体的に学び続けることができる状態を目指している。（図1）



「個別最適な学び」を実践していくためには、まず、全ての教職員が学習者基点に立ち、対話を通して、各学校の教育目標に基づいた目指す児童生徒の姿を具体化して共有することが必要である。さらに、各学校が目指す児童生徒の姿に向け、どのように教育活動を進めていくのかについて、「個別最適な学び」に必要な観点（学びの環境、学びの内容、学びの進め方、学びの集団、学びの評価など）を踏まえて、これまでの一斉指導を前提とした指導形態に捉われないことなく、子供たちの多様性を尊重し、柔軟に検討していくことが必要である。（図2）

多様な学びの選択肢を提供する方法としては、例えば、イェナプラン教育において見られる自分で学習計画を立てることや、デジタル機器を活用して学習ログを蓄積し、個々の児童生徒の状況を把握し、つまずきの解消を図ることなどが考えられる。



＜福山市立常石ともに学園（イェナプラン教育校として設置）における取組＞

福山市では、再編後の常石小学校の施設を活用し、令和4年4月にイェナプラン教育校を設置しており、第1学年から第3学年、第4学年から第6学年の3学年による異年齢集団を基本単位として教育活動を行っている。

各教科の基礎的な内容について、自分で選択したり教師から示されたりした課題に取り組む「ブロックアワー」では、子供たちは、自分で時間割を作り、一人で取り組んだり異年齢で考え合ったりしながら学んでいる。教科の学習で学んだ知識と関連付けながら協働的に学ぶ「ワールドオリエンテーション」では、子供たちが自ら生きた本物の題材から問いを見出し、探究している。異年齢の集団であることで、多様な見方・考え方、感じ方、経験や知識を交流しながら学ぶことができる。



ブロックアワーにおける児童の学び

参考HP：福山市立常石ともに学園ホームページ
<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-tsuneishi/>



2 具体的な取組事例

(1) 「個別最適な学び」に関する実証研究指定校等における取組

本県では、令和2年度から2年間、県内4地域で実施した「個別最適な学び」に関する実証研究指定校及び県内で「個別最適な学び」に取り組んでいる実践校の取組の概要を県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」において紹介している。実証研究指定校においては、学校教育目標の実現に向け、多様な学びの選択肢の提供と自己決定場面の設定を意識した教育活動を推進しており、結果児童生徒の92%に資質能力の伸びが見られるなどの教育効果が得られている。

なお、実践事例や教育効果等の詳細について、下記リンク先ページ「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」（図3-1～6）にて紹介しているので、ぜひ御覧いただきたい。

参考HP：ホットライン教育ひろしま

「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/kobetu-teian.html>



全ての子供たちの「主体的な学び」の実現に向けて

印刷用ページを表示する

個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案 ～Society5.0を見据えた「学びの変革」のアップデート～

本県では、全ての子供たちの「主体的な学び」の実現に向けて、個別最適な学びに関する調査研究を進め、令和2年3月に「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に係る提案」として整理するとともに、同年4月から、県内4地域において「個別最適な学びに関する実証研究」に取り組んできました。（2か年事業）

① 個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案（R2年3月）

② 実証研究及び教育効果の検証結果の概要（R3年3月）

【具体的な実践事例】

学校名	取組概要	実践事例
廿日市市立宮園小学校	単元内自由進度学習	① 実践事例報告（1）
江田島市立三高小学校	イェナプランを参考にした自立・協働学習	② 実践事例報告（2）
三次市立みらさか学園	単元別プロジェクト学習	③ 実践事例報告（3）
福山市立福山中学校	興味・関心に応じたMY探究	④ 実践事例報告（4）

図3-1 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

個別最適な学びに関する実証研究を振り返っての気付き

Goal 全ての児童生徒の「**主体的な学び**」の実現

手法 子供の实態に応じた多様な「**選択肢**」と「**自己決定**」を意識した教育活動

Point 1 教職員の大切にしたい心の持ち方・考え方
(次のようなマインドセットを意識)

- 学びの主体は子供 (⇒ 支え励まそう)
- 子供は力を持っている (⇒ 委ねよう)
- 子供には多様性がある (⇒ 尊重しよう)

Point 2 子供の实態(学習進度・能力・関心等)に応じた多様な選択肢と自己決定場面を設定

実証研究校での目指す姿

子供

- 自分から進んで学習しているか？
・自ら学習方法や内容を選択し、自分のペースで学んでいるか？
・分からない事を学び合いの中で自分たちで解決しているか？
- 自分の学びを本気で振り返っているか？

教師

- ◆ 子供の实態を踏まえた教材研究ができているか？
- ◆ 一人一人の学びを見取っているか？
- ◆ 個に応じた支援ができているか？

実証研究校での検証結果 (教育効果)

- ◆ 子供たちの資質・能力が向上した！
～コンピテンシーが伸びた児童生徒割合:約92%
- ◆ 自己決定すれば実行力・自己効力が伸びた！
～決断力と実行力の伸びの相関:約67%
～決断力と自己効力の伸びの相関:約75%
- ◆ 子供たちの主体性・理解度・満足度が高かった！
～各アンケートでの肯定的回答
主体性:約94%、理解度:約91%、満足度:約93%

図 3 - 2 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

【令和2年度の取組】実証研究指定校 実践事例報告

<p style="text-align: center;">廿日市市立宮園小学校</p> <p style="text-align: center;">【単元内自由進度学習】</p> <div style="text-align: right;"></div>	<p style="text-align: center;">江田島市立三高小学校</p> <p style="text-align: center;">【イエナプランを参考にした 自立・協働学習】</p> <div style="text-align: right;"></div>
<p style="text-align: center;">三次市立みらさか学園</p> <p style="text-align: center;">【単元別プロジェクト学習】</p> <div style="text-align: right;"></div>	<p style="text-align: center;">福山市立福山中学校</p> <p style="text-align: center;">【興味・関心に応じたMY探究】</p> <div style="text-align: right;"></div>

図 3 - 3 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

【令和3年度の取組】実証研究指定校 実践事例動画

<p style="text-align: center;">廿日市市立宮園小学校</p> <p style="text-align: center;">【自由進度学習】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>3年 算数・理科</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>5年 算数・社会</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>4年 算数</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>6年 算数・理科</p>  </div> </div>	<p style="text-align: center;">廿日市市立金剛寺小学校</p> <p style="text-align: center;">【ICT活用による、児童が学び合い、 探究し続ける授業】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>5年 体育</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>6年 国語・算数</p>  </div> </div>
---	--

【令和3年度の取組】実証研究指定校 実践事例動画

<p>江田島市立三高小学校</p> <p>【イエナプランを参考にした自立・協働学習】</p> <p>3～6年 総合</p> 	<p>福山市立福山中学校</p> <p>【興味・関心に応じたMY探究】</p> <p>1～3年 総合</p> 						
<p>三次市立みらさか学園</p> <p>【単元別プロジェクト学習】</p> <table border="0"> <tr> <td>小学6年 国語</td> <td></td> <td>中学1年 技術</td> <td></td> <td>中学2年 技術</td> <td></td> </tr> </table>		小学6年 国語		中学1年 技術		中学2年 技術	
小学6年 国語		中学1年 技術		中学2年 技術			

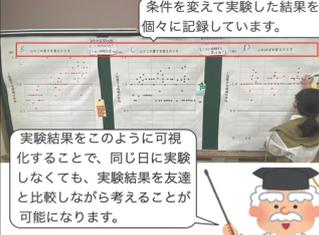
図3-4 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

【令和4年度の取組】「個別最適な学び」に取り組む実践校 実践事例動画

<p>廿日市市立金剛寺小学校</p> <p>【マイプラン学習】</p> <p>5年 算数</p> 	<p>三次市立みらさか学園</p> <p>【単元別プロジェクト学習】</p> <p>小学6年 中学2年 社会</p> 
<p>廿日市市立宮園小学校</p> <p>【自由進度学習】</p> <p>自由進度学習 Q & A</p> 	

図3-5 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

自由進度学習に関してよくある質問について解説しています！

<p>こんな質問、よく受けています！</p> <p>自由進度学習を進めていて、本当に学力は付くのでしょうか？ そこが不安で、なかなか取り組みません。</p> <p>「自立した学び手」を育成しようとしている宮園小学校では、子供たちの自己調整力が高まってきています。 6年生の姿をご覧ください。</p> 	<p>6年算数「図形の拡大と縮小」 理科「植物のからだのはたらき」</p> <p>自由進度学習 実践「図形の拡大と縮小」</p> <p>自由進度学習 実践「植物のからだのはたらき」</p> <p>算数9時間、理科8時間の学びを学習計画表に基づき自立的に進めていきます。</p> 	<p>条件を変えて実験した結果を個々に記録しています。</p> <p>実験結果をこのように可視化することで、同じ日に実験しなくても、実験結果を友達と比較しながら考えることが可能になります。</p> 
---	--	--

自由進度学習に関してよくある質問を、廿日市市立宮園小学校の実践を解説した動画を掲載しています。実践してみたいがやり方が分からない、不安があるという方はぜひ御覧ください。

【このような質問に答えています】

- ・自由進度学習を進めていて、本当に学力は付くのでしょうか？
- ・時間内に終わらない子が出てくるのではないですか？
- ・一人一人の学びをどのように見取るのでしょうか？
- ・自由進度学習は、低学年でもできるのでしょうか？

【令和5年度の取組】「個別最適な学び」に取り組む実践校 実践事例動画

廿日市市立地御前小学校
【自由進度学習】

1年
算数



1年
算数・国語



世羅町立世羅中学校
【単元内自由進度学習】

1年
数学



図3-6 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

小学校第1学年、中学校第1学年の実践を紹介しています！

廿日市市立地御前小学校

【目指す姿】「自ら学ぶ力」を育む

宮園小学校で実践してきたことを生かして、1年生と一緒に自由進度学習にチャレンジしてみました。
1年生の子供たちが自立して学びを進められるように、丁寧な準備を行いました。

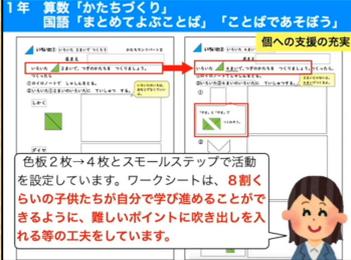
↓

【具体的な手立て】

学習計画書の充実（自分で進捗管理できる学習計画書を準備）
個への支援の充実（自分で進められるワークシートを作成）
学習環境の工夫（繰り返し体験できるコーナーを設置）

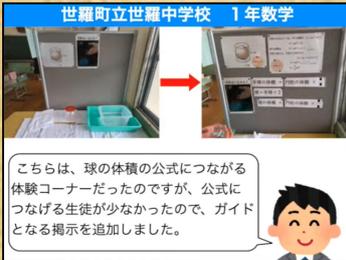
1年 算数「かたちづくり」
国語「まとめてよぶことば」「ことばであそぼう」

個への支援の充実



色板2枚→4枚とスモールステップで活動を設定しています。ワークシートは、8割くらいの子供たちが自分で学び進めることができるように、難しいポイントに吹き出しを入れる等の工夫をしています。

世羅町立世羅中学校 1年数学



こちらは、球の体積の公式につながる体験コーナーだったのですが、公式につながる生徒が少なかったため、ガイドとなる掲示を追加しました。

小学校第1学年、中学校第1学年の実践を動画でまとめています。「学習計画表」「個への支援」「学習環境」など、取組を充実させるためのポイントについて、実践をもとに解説しています。

「実践してみたが上手くいかない」「どのようなことに注意して実践すればいいの?」といった思いをお持ちの方は、ぜひ御覧ください。

(2) 不登校SSR（スペシャルサポートルーム）推進校における取組

「令和5年度の広島県における生徒指導上の諸課題の現状について」によると、広島県内の国公立小・中・高等学校（全日制・定時制）における不登校の児童生徒数は10,764人であり、前年度と比較すると1,634（17.9%）増加した。校種別に見ると、小学校では8年連続、中学校では10年連続で増加しており、不登校、不登校傾向及び特別な支援が必要と考えられる児童生徒（以下「不登校等児童生徒」という。）への支援は重要な課題である。

不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ることとして捉える必要がある。また、不登校とは、多様な要因・背景により、結果として不登校状態になっているということであり、その行為を「問題行動」と判断しては

ならない。さらに、不登校等児童生徒については、個々の状況に応じた支援を行うことが必要であり、登校という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒や保護者の意思を十分に尊重しつつ、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。

本県においては、令和元年度から学校内にスペシャルサポートルーム（以下「SSR」という。）を設置し、不登校等児童生徒への支援の充実に向けた取組を進めている。

ア 組織的な学校体制の構築

不登校SSR推進校（以下「推進校」という。）においては、個々の児童生徒に応じた支援を行うため、中核的な役割を担う不登校等児童生徒支援コーディネーター（以下「支援Co」という。）を校内組織に位置づけ、定期的に不登校等児童生徒支援会議を開催するなど、学校全体で不登校等児童生徒の状況、取組方針、具体的な取組方法等を共有するためのシステムを構築している。

イ SSRの設置及び運営等

SSRにおける様々な取組を通して児童生徒に身に付けさせたい力は、右の二つの力であると考えている。児童生徒がこのような力を身に付けていく

ためには、SSRが児童生徒にとって安心感があり、自らの意思で取り組むことを決定できるような場所であることが必要である。また、自分の特性を知り、困ったことがあれば相談でき、得意な力を生かし、成長する場となるよう支援を行っている。

（ア）安全であり、安心できる居場所とするための環境整備

不登校等児童生徒の心情や特徴等に配慮し、学校や教室の雰囲気を意識しすぎない環境、周りの視線を気にすることなく入室できる場所へのSSRの設置や動線の確保、また、SSR内にリラックスできる場を設けるなど登校への嫌悪感を弱めるSSR内の環境整備を目指している。さらに、児童生徒が学習を進めるに当たって、その内容や方法、場所を自分で選択し、決定で

推進校における取組内容等

- ア 組織的な学校体制の構築
- イ SSRの設置及び運営等
- ウ SSRにおける成果等の学校全体への普及
- エ 中学校区としての一体的な取組の推進
- オ SSRの周知及び成果等の発信

不登校等児童生徒支援会議（週1回程度）

<メンバー>

管理職、生徒指導主事、支援Co、養護教諭、学級担任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等

<協議内容～個別サポート計画等を基にして～>

- 不登校等児童生徒の状況
- 取組方針や具体的な取組方法等

【SSRで育てたい力】

- 相談する力
- 自分の強みを知り、生かす力

きるなど、安全であり、安心できる場所となっているか、利用する児童生徒とともに話し合いながらレイアウトを工夫している。

<p>〈学校や教室の雰囲気を意識しすぎない環境づくり〉</p>  <p>ソファを置いたり、机にテーブルクロスをかけたりして学校や教室と違った雰囲気を創り出しています。</p>	<p>〈周りの視線を気にすることなく入室できる動線を確保〉</p>  <p>児童生徒の思いを聞きながら、外階段を利用するなど、周りの視線を気にすることなく入室できる場所へSSRを設置しています。</p>
--	---

〈個別の学習と協働での学習の両立が可能なレイアウト〉



個別の学習スペースやグループで学習できる場を整備し、児童生徒が心の状態や学ぶ内容により選択することができるようにしています。

(イ) 成長していく場としての個別のサポート計画の作成

SSRが「成長していく場」となるために必要となるのは、SSRを利用する児童生徒に対する適切なアセスメントの実施である。個々の状況、そして、その状況に至っている要因を探るとともに、個々の状況等を踏まえた長期目標・短期目標や具体的な手立てを記載した個別サポート計画（図4）を作成している。長期目標・短期目標の設定、具体的な手立ての検討に当たっては、不登校等児童生徒支援会議等において十分に協議するとともに、当該児童生徒及びその保護者に説明し、共通理解を図っている。

	学年 組	氏名	学級担任名（作成者）
児童生徒の状況	状況		
	合理的配慮		
	支援機関（当事者名）		
	その他		
本人の意向		保護者の意向	
長期目標	指導の実際		
開始日	短期目標（行動内容）	手立て	評価 【いつ、誰が、どこで評価するか】

図4 個別のサポート計画（様式例）

(ウ) 多様な選択肢の提供と自己決定を意識した教育活動の推進

不登校等児童生徒の学習状況、興味・関心等に応じて、支援Coと学級担任や教科担当教員等とが連携して多様な学びの選択肢を準備するとともに、不登校等児童生徒が学ぶ内容や方法、場所を主体的に選択肢、自己決定して学びに向かうよう支援している。SSRでの学習支援においては、児童生徒の興味・関心を生かした学びをきっかけとして、継続した学びにつなげてい

くこと、自分の強みや苦手なところを意識させたり、他者と学び合う場を設定したりすることで自己理解を図っていくこと、さらに、これらの日々の活動に関しての児童生徒自身が振り返りを行うことで、活動時の自分を客観的にとらえることや教職員からの声かけによって、次の活動への動機付けにつなげていくことなどを大切にしている。

例えば、次ページの表中にあるように、「SSR 個展」と題して、児童生徒自身の興味・関心がある「世界の衣装」について調べたまとめや、描いた絵画を展示し、SSRに来た教職員や他者からの評価を得ることで継続した学びへつなげたり、また、「先生お手伝いサービス」という活動の中で、請け負った仕事をやり遂げることや、高校へ進学した先輩から高校生活の様子や中学校時代の思いを聞くことで、自分自身の得意や不得意など自己理解を深めたり、将来への展望を明確にしたりする実践がある。

さらに、SSRという小集団の中においても、体験活動等を実施するなど、意図的に児童生徒相互が学び合う機会を設定した取組や日々、児童生徒が自身の活動を振り返り、教職員からのコメントを付すことにより、日々の成長を実感できる取組もある。

ウ SSRにおける成果等の学校全体への普及

SSRにおける不登校等児童生徒への支援の考え方や方法等、その成果等については、SSR内での取組に留めることなく、学校全体の全ての児童生徒への支援に生かしていくことが大切である。校内研修等において、校内の全教職員がその趣旨等を十分に理解するとともに、安全・安心な学校風土・学級風土の醸成や個々の児童生徒の多様な学習状況や興味・関心に柔軟に応じた、児童生徒が「学んでみたい」、「分かる・できる」を実感できる授業づくりの推進に生かすことにより、新たな不登校を生じさせない取組の充実につなげていくことが必要である。

エ 中学校区としての一体的な取組の推進

不登校SSR推進校における取組は、推進校として指定された学校だけでなく、推進校と同一中学校区内の小中学校等が、校区内連携の充実、中学校区としての支援体制の構築、合同研修会の実施などを通じて、中学校区が一体となった取組を推進している。

<児童生徒の興味・関心等を生かした学び>

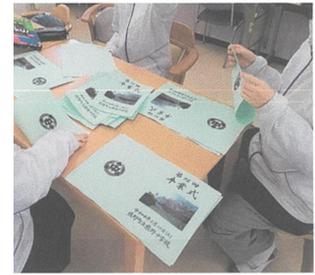


自分たちが興味・関心のあることについて、それぞれが調べ、自分なりの工夫をしてまとめました。また、SSR 個展として、先生方を招待し、調べたことの発表会を開催しました。居職員から、たくさんの「いいね」の評価をもらいました。

〈自己理解につながる取組〉

「先生お手伝いサービス」

教職員から仕事を募り、請け負った生徒が中心となり、見通しをもって仲間と協力しながら仕事をやり遂げました。



「高校へ進学した先輩（SSR利用）に学ぶ会」

高校に進学した先輩（SSR利用）の話聞き、自分の目標をより明確にしたり、受験や高校生活への不安を解消したりしました。

〈児童生徒相互に学び合う場の設定〉



児童生徒相互が教え合う活動や関わり合い・協力が必要となる体験活動などを取り入れ、相互に認め合うことができるよりよい人間関係を築いています。

また、体験活動における様々な体験を自分が何に興味・関心があるのかに気付き、学びを広げていくきっかけとしています。

〈振り返りと教職員からの声かけ〉

児童生徒の振り返りに学校からコメントを返すことで、達成感を持ち、成長を実感することにつながっています。

教職員からのコメント

実習の下校時刻	15時 23分	14時 55分	10時 45分
1日の感想	計算を少し速く になりました	ここでも計算を 速くしました	少し計算を速く にしました
学校から	10分間の作業、早い スピードで、70%の スピードで完了した のは素晴らしいです	計算のスピードが速く いよ、今時来た作業 は素晴らしいです	計算が正確でき る、スピードも速く です。

下校時刻
を記入

児童生徒
自身の振
り返り

(ア) 校区内連携の充実

推進校に配置されている支援 Co が、校区内の学校に、月 1 回程度訪問し、中学校区内の不登校等児童生徒への支援及び学級経営や授業改善に向けて支援している。

(イ) 中学校区の支援体制の構築

不登校 SSR 推進校に設置している SSR を、校区内の小中学校等の児童生徒が利用できる運用を認めるなど、中学校区で一体的な取組を進めるための支援体制を構築する。

(ウ) 合同研修会の実施

学期に 1 回程度、定期的に中学校区内の学校が合同研修会や連絡会を実施するなどして、推進校の取組の成果等や支援方針等の共有化を図っている。

オ SSR の周知及び成果等の発信

SSR を誰もが利用しやすい場所としていく観点から、設置の目的等について、校内の全教職員や利用する児童生徒・保護者のみならず、全校の児童生徒や保護者、教職員への理解を図っていくことが必要である。また、必要に応じて、中学校区内の児童生徒及び保護者、教職員等にも理解を図っている。

(ア) SSR の周知

学校だよりや SSR 通信、学校ホームページ等を活用した推進校及び関係校の児童生徒及び保護者等への周知、また、長期欠席経験のある新入生及びその保護者に対する入学前や入学直後の SSR 見学会、教育相談等の実施などを通

して、SSRの設置の目的等について理解を図っている。

(イ) 取組の成果等の発信

SSRの設置による不登校等児童生徒への支援の在り方や成果等について、不登校SSR推進校連絡会議、教育センター専門研修講座（学びプラス）、令和6年度「学びの変革」推進のための実践等交流会（マナビノラボ）などにおける実践発表等を通じて県全体への普及を図っている。

(3) 県教育支援センター（SCHOOL “S”）による支援

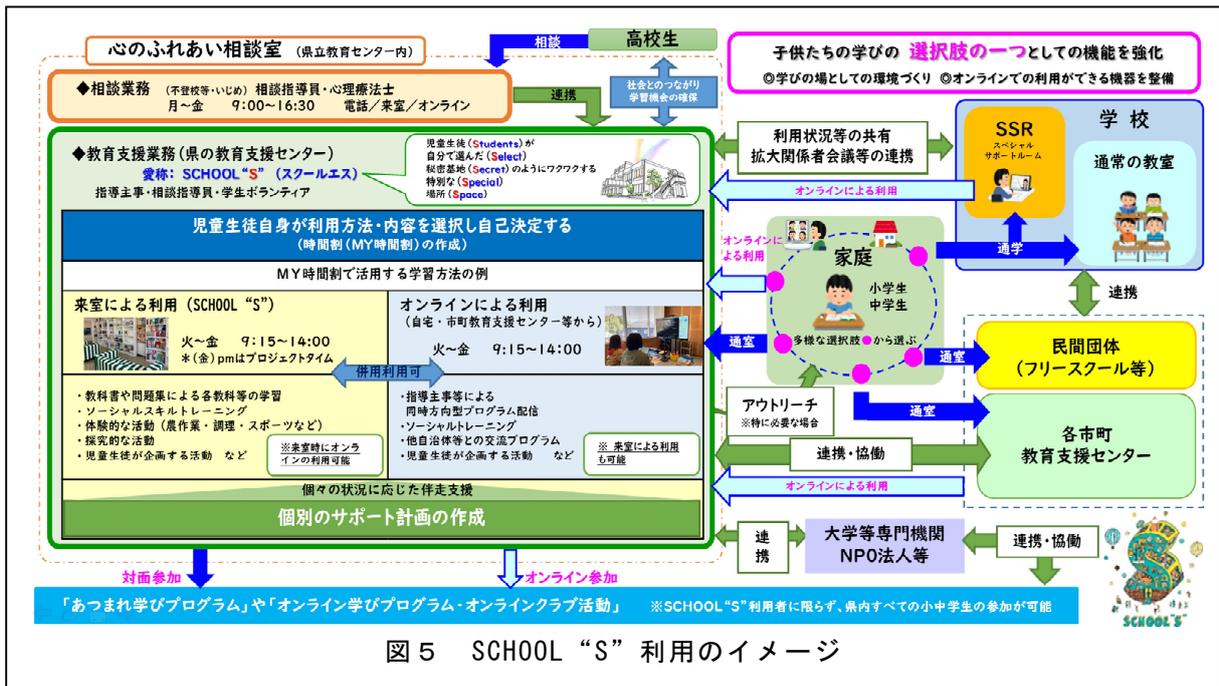
県教育支援センター（以下、「SCHOOL “S”」という。）においては、令和4年度から不登校等児童生徒が社会とつながる多様な居場所、学びの場の選択肢の一つ（図5）として、環境を一新するとともに、これまでの来室による支援に加え、オンラインでつながることができる機器を整備するなど機能を強化した。児童生徒は来室して利用することもできるし、自宅などからオンラインで利用することもでき、また、併用も可能とするなど利用方法も選択できることとしている。

ア 支援内容及び方法

SCHOOL “S” では、利用する児童生徒に対して、育成したい力として、「相談できる力」、「自分の強みを知り、生かす力」を設定し、スタッフは、伴走者として、次のような支援を行っている。

- アセスメントの実施
- 個別サポート計画の作成
- 個別サポート計画に基づいた個別の支援にかかる相談
- 児童生徒が学びたい内容を踏まえた時間割（MY 時間割）作成
- 児童生徒の目標に向けた振り返りの実施と次の段階の目標設定

	来室による利用	オンラインによる利用
曜日	火～金	
時間	9時15分～14時00分	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書等による各教科等の学習 ○ ソーシャルスキルトレーニング ○ 体験的な活動 (農作業・調理・スポーツなど) ○ 探究的な活動 ○ 児童生徒の企画による活動 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同時双方向型プログラム配信 ○ ソーシャルトレーニング ○ 他自治体等との交流プログラム ○ 児童生徒が企画する活動 など



イ 活動の実際

来室でもオンラインでも利用する児童生徒と SCHOOL "S" のスタッフが相談しながら、自分の時間割 (MY時間割) (図6) を作成し、自分に合った学びを選んで様々な学習を進めている。

MY 時間割 ※併用利用の場合の例				
利用方法	来室	オンライン	オンライン	来室
曜日	火	水	木	金
	9:15	おはようタイム	おはようタイム	おはようタイム
1	9:30 10:15	Cタイム	SCHOOL "S" チャンネル	manabiタイム
2	10:30 11:15	個別学習等 (教科書・問題集)	SCHOOL "S" チャンネル	学プロ・クラブ
	12:45	こんにちはタイム	こんにちはタイム	こんにちはタイム
3	13:00 13:45	個別学習等 (スポーツ)	学プロ・クラブ	SCHOOL "S" チャンネル
	14:00	じゃーねータイム	じゃーねータイム	じゃーねータイム

選択・自己決定	
コンテンツ名	内容
おはようタイム	出席状況の確認や健康観察及び1日の過ごし方などを確認する。
こんにちはタイム	出席状況の確認や健康観察及び午前中で活動を終了する児童生徒の振り返りを行う。
じゃーねータイム	1日の活動の簡単な振り返りや今後の予定等を確認する。
個別学習等	児童生徒自身が自分で考えた学習や活動 (読書、スポーツなど) を行う。
Cタイム (communication)	1週間の予定などを確認し、[MY時間割] を作成する。
SST (social skill training)	ソーシャルスキルトレーニング。対人関係や集団生活を営みやすくするための技能 (スキル) を養う。
manabiタイム	児童生徒の計画をもとに、個別もしくは集団で学習する。
学プロ・クラブ	県教育委員会が実施するオンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動。興味・関心を同じくする小集団で楽しみながら学ぶ場や交流する場を提供する。
SCHOOL "S" チャンネル	リアルタイムオンライン配信プログラム (スタッフはMC等を務めます) ※ 全てのコマで配信
探究タイム	農業体験や調理、スポーツなど興味・関心に応じ、探究的な活動を行う。

施設内を探索して植物の観察 (個別学習等)

Sグッズづくり (探究タイム)

S大改造ビフォーアフター (探究タイム)

図6 自分の時間割 (MY時間割) の例

ウ 学校・市町教育委員会との連携

利用している児童生徒の在籍校や関係市町教育委員会とは、定期的に連携し、生活や学習の様子等について情報共有している。また、利用している児童生徒の在籍校に限らず、県内の教職員を対象とした「SCHOOL “S” オープンスクール」を夏季休業中に開催するなど、様々な見学機会を設けて、SCHOOL “S” における取組の趣旨や内容等についての理解を深め、不登校等児童生徒への支援の在り方について共通理解を図っている。

(4) ひろしま学びプログラムの実施

令和元年度から、不登校等の学校における集団での学習になじめない児童生徒を対象として、「知的好奇心を喚起するとともに、社会とのつながりを促し、学び続ける力の育成」を目指し、東京大学先端科学技術研究センターと連携した、「東大ROCKET in 広島（令和3年度からは「東大LEARN in 広島」、令和4年度からは「LEARN in 広島」という名称に変更）を実施してきた。令和6年度からは、これまで得た知見をもとに、県教育委員会独自でプログラムを開発することとし、「ひろしま学びプログラム」として、次の3種類のプログラムを実施している。

ア あつまれ！学びプログラム

県内の4地域（西部・芸北・東部・北部）において、域内の企業や自治体等と連携しながら、体験を通して学んだことと既存の知識や技能とを結び付ける学びの場を提供し、社会とのつながりを促すとともに、知的好奇心を喚起し、学び続ける力の育成を目指したプログラムを実施している。

	地域	テーマ	参加人数	参加児童生徒の様子
1	北部	3つのあいさがし～3つのあいとは？～	—	※ 悪天候により中止
2	芸北	バスで行くグルメミステリーツアー ～あきの味覚狩り 運転手はキミか??～ 	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で自然の中で食材を集めたり、普段知ることができない「食」に関する知識を得られたことで食べ物に対する見方が変わった。 ○ あまり見かけない作物の収穫や、ヤマメを釣って、捌くなどの初めての貴重な体験をすることができた。実際に手を動かす大切さを学んだ。 ○ 料理を作る前のことも、食材をどう使うのかもあまり考えたことがなかった。食材を作っている方々は知識や経験をもとに日々、食材を作ってくださっていることに気づいた。
3	西部	感性を研ぎ澄まし、東奔西走！ ～あつプロ電鉄 HIROSHIMA 編～	12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手の感じ方を考えながら写真を撮った。 ○ 街の人が忙しくされていて、協力してもらうことが難しかったが、協力してくれる人を探すことができた。 ○ 声を掛けるとき緊張したが、できると自信がいった。
4	東部	※ 令和7年2月実施予定		

県教育委員会 HP あつまれ！学びプログラム（旧称：LEARN in 広島）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouikul7/learn.html>

イ オンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動

令和3年7月から、不登校SSR推進校（R3:21校）をオンラインでつなぎ、参加対象として取り組みはじめたものである。図7（令和6年度実施分フライヤー（一部））にあるように様々な機関・企業と協働し、児童生徒の知的好奇心を喚起し、学びの楽しさを感じられるプログラム（オンライン学びプログラム）、同じ興味・関心をもつ児童生徒が集まって、学び合ったり、語り合ったりするプログラム（オンラインクラブ活動）がある。令和4年度からは県内全ての小中学校や教育支援センターから参加できることとし、オンライン学びプログラムは月2～3回、オンラインクラブ活動は月2回程度実施している。（要事前登録※）

また、本県と同様にオンラインを活用した不登校等児童生徒への支援を実施している自治体（福島県・三重県・愛媛県など、以下「連携自治体」）とも連携し、本県が実施しているプログラムに連携自治体の児童生徒が、連携自治体から配信されたプログラムに本県の児童生徒が参加して学び合うこともある。

※「ひろしま学びプログラム（オンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動）実施要項（令和6年4月26日通知）参照



図7 オンライン学びプログラムフライヤー（令和6年度実施分一部）

ウ いつでもチャレンジ ～キミたちの挑戦をまっている～

学校や教育支援センターまで来室しなくても、自宅等から視聴し、一人あるいは少人数でも、軽く体を動かしながらチャレンジできる、リフティング、ダンス、けん玉の動画（図8）を、様々な分野のゲストティーチャーに協力いただき、県公式YouTubeチャンネルにて配信している。



図8 いつでもチャレンジ動画